

温水プールの初日（水曜日）、すぐにでもプールに入れる服装で登校してくる子どもを迎えていた。「何その恰好？」「校長先生もプールへ行くの？」「コーヒー先生じゃん！」▼温水プール2回目の金曜日、今日は出張の関係で、いつもの服装で登校してくる子どもを迎えていた「今日は、プール行かないの？」「なんで今日は行かないの？」この2日間から、教師の服装をよく見ている子がいることが分かった▼実は、右手の人差し指の怪我をした。ガーゼを巻いてネットを被せている。校内で出くわす子どもの中には、「指どうしたの？」と声をかけてくれる子がいる。「けがをしたんだよ。痛いんだよ」そう答えると、「見せて～」と怖いもの知らずな子がいた。「触らせて～」と不思議な子もいた。触られても痛くはないので、「いいよ～」と言うと、感触を確かめ、満足したようだ▼人の変化に気がつく子は多い。人に興味を持つことは悪いことではない。よく見ている。その興味は「あたたかく」あってほしい。そして今週、声をかけてくれたすべての子どもに共通していたのは、「やさしい話し方」だった。「あたたかい心」と「やさしい話し方」は子どもの「財産」になる▼わたしは、遠近2種類の眼鏡を使い分けている。子どもの前でよくはめている遠の眼鏡を2学期から新調した。だれにも気がつかれていないかも？それはどうでもよいことだ。